

【問5 今回の見学会についての感想やお気づきの点などのほか、障がい者雇用に当た
る課題やご要望など】

1 見学会に関すること

(1) 生徒について

- ・初めて高等支援学校の見学会に参加した。思っていたより、学生が一人一人自立して作業をしており、とても驚いた。
- ・生徒がいきいきと仕事をしていて、表情から楽しさが伝わってきた。
- ・生徒たちの真剣な取り組み姿勢等、拝見することができ、大変有意義な時間を過ごせた。
- ・一人一人が目標に向かって頑張っている姿がよく分かった。
- ・見学では、生徒がいきいきと実習されている様子がみられ、障がいがあっても難しいことがある中でも、どんな人でも社会的一員として生活できると感じた。
- ・生徒が元気に挨拶をしてくれ、日頃から挨拶などのコミュニケーションを大切にしていることが伺えた。
- ・何よりも生徒のみなさんにしっかり挨拶をしていただけて、嬉しかった。
- ・突然、今の作業についての説明を求められても、落ち着いて的確に説明しており、感心した。
- ・障がい者という先入観があったが、素直さ、まじめさなど、健常者と変わらないという感覚を覚えた。
- ・元気かつしっかりした生徒が大勢いて、大変活気があるように感じた。
- ・焼き物などのスキルの高さに驚かされた。
- ・生徒達の元気で丁寧な作業が見られて良かった。
- ・実際の作業と同じ感じでやられていたので、即戦力になる感じを持った。
- ・素直に取り組んでいる姿、真面目さを感じ、私達事業所でも何か役立つことを考えていきたい。
- ・実際に見学し、生徒達の様子が分かり、普通校に通う高校生とあまり変わらない印象も受けた。
- ・実際の職場活動にも活かしていきたいと思うくらい、1人1人が具体的に考えているので、感動した。
- ・一般の人は、こんなにも考えることはなく、生活や仕事をしているので、すごく立派だなと思う。

【問5 見学会について良かった点またはお気づきの点】

(2) 学校について

- 学校のカリキュラムがすばらしく、この学校を卒業された方は、社会で働く力を持って就職しているので、企業としてとても助かると思う。
- 生産から販売まで、様々なカリキュラムを経験して、個々人の適性を見いだしていくシステムが、上手く機能していると感じた。
- 生徒達が「できる」ことから取り組むカリキュラムにとっても共感できた。
- 高等支援学校の教育のあり方として、全国のお手本となる様な手厚い支援体制等々に感動した。
- 学校独自の取り組みが豊富で、通っている生徒は、未来に希望を持って学ぶことができると思った。
- 学科の種類が多く、普通科もあるとのことで、学生さんの得意分野を伸ばしていきやすい環境なのかなと感じた。
- 高等学校と比較しても支援学校の方が職業訓練がなされており、就業状況によっては、企業としては良い人材になるのではと思った。
- 先生方が生徒1人1人の長所を把握して、それぞれの役割を担っていて、より高度な力を身につけているのがよく分かった。
- 先生達の素晴らしい指導取組も十分理解できた。
- 社会、企業、ニーズに沿った教育コースで生徒一人ひとりの可能性をさらに育成し、卒業後の自立支援に繋がっていることを実感した。
- 生徒の皆が将来に向けて自分で考え意思決定をするための学びを工夫されていて、大変参考になった。
- 子供達の将来の幅が広がり、明るい未来があるなと思った。
- 地域で暮らしている方や、企業との繋がりも深く、社会性を身につけることができると感じた。
- 想像を上回る教育をされていて、通っている生徒の皆さんにしっかり定着していると感じた。
- 体力づくりをほぼ毎日されていることに驚いた。会社としては、「毎日元気に出勤してくれる」ことが一番なので、とても良いと思った。
- 校舎内、大変きれいに清掃されており、整理整頓されていると感じた。
- 床も階段もワックスがけがされて、とても綺麗で、とても築30年の校舎とは思えなかった。
- 掲示物のワークショップの内容、実習への取組みの内容は、すごくしっかり考えていた。
- 学校や実習での学びを通して、安心して就労できる仕組みがあることが分かった。

【問5 見学会について良かった点またはお気づきの点】

(3) 見学内容について

- 初めての参加だったが、丁寧な説明で分かりやすい内容だった。
- 各作業現場を見学することができ、生徒のまじめさや仕事に対する姿勢を理解することができた。
- 卒業して活躍している先輩からの話が聞けて非常によかった。
- 卒業生の話は、頑張っている姿や思っていることが伝わってきた。大変よかった。
- 授業の取り組みによる生徒への効果について、現場の先生から聞けると、卒後対応の参考になる。
- 以前実習で学生を受け入れたことがあるが、やはり、実習や見学で実際に触れ合ったりすると、理解しやすいと思う。
- 学生と座談会のような形で、仕事に対しての思い、不安、企業の思いを伝えられると、就職の準備に繋がられていいなと思った。
- 先生方の思いも直接聞いたことで、少し理解できた。
- ハローワークからの説明もあり参考になった。
- 校内が少々寒かった。
- 去年は、あまり企業の参加が少なかったということから、広く周知すれば、もっと企業参加があると思う。
- マスコミ等も活用すれば良い。

【問5 見学会について良かった点またはお気づきの点】

(4) その他

- ・ 昨年も訪問したが、時期が違つと、子供達の表情や作業内容も違つて、新鮮だった。
- ・ 今回初めて授業内容を見学して、調理、接客、木工製作が見られて新鮮だった。
- ・ 他校とは違つた取り組みが見られて良かった。
- ・ 養護学校のこと、知的障がい者のことをたくさん聞けて理解が深まった。
- ・ 実際に生徒さんの学校での様子や生活の環境を見ることが出来て良かった。
- ・ 当社として、特別支援学校との接点が今まで皆無だったので、来春採用を予定しているが、大変勉強になった。
- ・ やはり現場を見ないといけない。
- ・ 木工科の作品は、とてもすばらしかった。
- ・ 掲示物を拝見し、文章、字が上手であることにも感動した。
- ・ 農福連携の推進に関わっているが、このような理解促進のための機会は重要だと感じる。
- ・ 難しい取り組みかと思うが、農業現場や農協の様々な施設でも農作物の生産を維持するために、人材を確保することは本当に喫緊の問題であるが、その分野においても参考となる見学会だった。
- ・ 企業側が変わる、このことを今回学べてよかった。
- ・ また機会があれば、参加させて欲しい。
- ・ 一般就労が3割ほどと伺つたので、残りの7割の生徒さんの卒業後の状況が気になります。
- ・ 実際に卒業生が就業した企業側の話が聞ける機会があるとよりよい。
- ・ 施設の設備がクリーニングや清掃等、一部の業種では即戦力になりそうな感じだが、もう少し幅広い業種の学習なども広げた方がよいと思う。(建設、建築や運送、電子関係など)
- ・ 職業能力も大事ではあるが、人間関係(コミュニケーション)が1番だと思っているので、生徒たちにもっともっと人と人との繋がりを勉強して行って欲しいと思う。
- ・ コロナの現状を考えると、生徒の安全確保は大変だと思うが、頑張っていきたいと思います。
- ・ 様々な会社の参加があり、各会社との連携をより多く結び、情報の交換が必要と思った。
- ・ 支援学校、就労支援事業所と農業を結びつける場面が少ないので、その機会を増やすことが大切だと感じた。

【問5 見学会について良かった点またはお気づきの点】

2 採用・雇用に関すること

(1) 採用について

- ・今までは、社会経験のない方の採用を控えていたが、今後は検討していきたいと思った。
- ・新卒も含め、将来の卒業予定者も積極的に採用したい。
- ・弊社と生徒がマッチングできるように仕事内容を見直し、見つけて積極的に採用できればと思う。
- ・今回の見学で対象の学生は、工場作業ができそうな学生はいるのかな、という目線で見したが、清掃だったり事務作業だったり、企業側の受入態勢次第で、他の仕事も任せられるのかなと思った。
- ・普通に働いてくれる人がいそうなので、前向きに検討したい。
- ・当社にも是非、卒業生を採用できればと思っている。
- ・障がい者雇用を推進していく上で、自社内でもっと仕事内容を精査していくと同時に、受入体制の確立が必要と感じた。
- ・障がい者の雇用に明るい未来を感じ、雇用事業としても、信頼される企業として、努力してまいる。
- ・障がい者の雇用の場を提供するための条件整理を検討したい。
- ・障がい者雇用にあたり、まずは作業の選定が課題と感じているが、見学を通してヒントになることや出来る作業の可能性は色々あると感じた。
- ・障がい者雇用をするにあたっては、職場での理解、受け入れる体制を整えていかないと、すぐには難しい。今後検討していければと思う。
- ・障がい者を雇用する側の障がい者への偏見や理解不足などが一番の課題と考え、学んでいる最中である。
- ・卒後3年間は、学校の支援があるが、その後、なかなか相談することができず、離職するケースもあったので、私ども地域の相談機関として、卒後から連携させていただければと思う。
- ・農業において、ここ数年は人手不足がより顕著になっており、これら農業現場と人材のマッチングに向けて、微力ですが務めていきたい。
- ・農業者側に福祉に対する理解がより広がるように、私たちも努力していきたい。
- ・農業現場では労働力が不足している。将来、実習先として農作業があれば、就労の幅が広がらないかなと思った。
- ・「動画」を使ったマニュアルは、当社でも使えると思った。
- ・まずは、現場実習の受入ができるようにと思う。

【問5 見学会について良かった点またはお気づきの点】

(2) 採用等における課題

- 企業として充当したい業務に適した人材を確保するといった考え方を、可能な業務に企業が合わせていく、このような考え方に変えていくことが必要であり大切であろう。難しいがそうしていかないとマッチングは進まない。
- こちら側からの理解を深めることがポイントとなるはずなので、前向きに検討する。
- 雇用後の職場環境になじめるかが大きな課題。
- 障がい者雇用で採用した人材のレベルが非常に見えにくいところがある。
- 単純作業はOKだけれども、複雑な作業はダメであるとか、具体的に働いてみていただかないと判断できないところだと思料する。
- 一日(約8時間)、週5日間、同じ作業を続けていただく仕事をつくるのが難しく、一番の課題となる。
- パソコンによる仕事が多く、なかなか難しい面もあると感じた。
- 事業所での作業内容と子供達の特性のマッチングが重要と思う。
- 一般就労では、各企業において、効率化が進んでいるが、仕事の切り出しや受入についての認識を進めていく必要がある。
- 一事業者の体力での雇用が難しい場合は、類似作業を担うワークシェアの仕組みも働く場を作るという上では、有効ではないかと感じた。
- これまでは、概ね順調に経過してきたが、今後、長く定着して勤務してもらえるかどうかは課題である。

(3) その他

- まだまだ社内的に仕事の精査や体制づくりなど課題はあるが、できるところから、まずは現場実習などの受入態勢など検討させていただきたく思う。
- 障がい者雇用について、まだまだ知識不足のところがあり、このような機会に今後も参加し、当組合又は農業法人への雇用に繋げていきたい。
- 見学、体験、実習についての具体的な進め方、スケジュールがあるとありがたい。
- 今後、雇用検討に向けて色々ご相談させて頂きたい。
- 地域の障がい者雇用が広がるよう、今後も連携させていただければ。
- 支援学校卒業生を雇用して1年半になるが、この間、ジョブコーチ制度により支援を受け、アドバイスと本人のケアを受けられたことがとても良かった。
- 協力できる事があれば、前向きに取り組んでいければと思う。